

第四次青梅市子ども読書活動推進計画（原案）の意見募集（パブリックコメント）実施結果

- 1 実施期間
平成30年12月1日（土）～12月14日（金） 14日間
- 2 意見募集結果
4名
- 3 意見要旨および市の考え方

意見要旨	市の考え方
子どもの読書活動には、乳児期からの絵本の読み語りが必要だと思えます。 ブックスタートの取組は良いと思うのですが、初めて子育てをする保護者には、どのように読んで良いかわからないとの声を聞くことがあります。実際に読んであげると「おもしろくなさそうだったけど、子どもはみるんですね」等の声を聞くことがあります。 読み語り会での保護者への専門的なアプローチも大切だと思います。 まずは保護者が読んで楽しいと思える絵本との出会いが始めの一歩であり、その場をサポートするマンパワーが大切であり、必要だと思えます。	【2 子どもの読書活動の推進に関する理解の促進と啓発・公報】 （2）読書活動への理解を促進させるための事業等や講演会の開催 乳幼児健康診査などの機会を通じて、保護者が育児の中に読書活動を取入れる意識が持てるよう啓発してまいります。 【4 子どもの読書活動推進のための人材の育成・活用】 （1）子どもの読書に関するボランティアの育成 絵本の読み語りの手法等については、おはなし会や絵本の読み聞かせ等のボランティアの育成の中で取組んでまいります。 また、現在、絵本の読み聞かせ方や読み聞かせにおすすめの本を紹介する「絵本のべんきょう会」を開催しておりますので御活用ください。
絵本の読み聞かせの充実や保育園・幼稚園における地域の子どもたちへの読書活動活性化の取組はとても良いと思います。 ただ、実施するにあたって「ただ読んでいればいい」「時間だから読む」等のやっつけ仕事的なところが無いことを希望します。特に乳幼児で、五感で絵本を見ると言われています。読み手の声・におい・服の色etc. いろいろ感じ取りながら「楽しい！」という記憶をしていくと思います。読み手のスキルアップも必要ではないでしょうか？	【4 子どもの読書活動推進のために人材の育成・活用】 （1）子どもの読書に関するボランティアの育成 おはなし会や絵本の読み聞かせ等のボランティアの育成講座を通じて、読み手のスキルアップに努めてまいります。
各小学校に1名の図書館職員が配置されて、小学校の図書館は年々使いやすく居心地の良い部屋になっているのが、学校を訪れた時に伝わってきていて、とても嬉しく思っています。 1ヵ月に1回よみかかせのボランティアを行っているのですが、図書館職員の方と一緒にすることがありません。 できれば連携が取れたら、より良いよみかかせができるのではと考えます。	【3 子ども読書活動を推進するための関係機関等の連携】 （3）学校図書館への学校司書の配置による読書活動の充実 学校司書は現在週1回の勤務ですが、学校司書と学校ボランティアの日程を調整して、連携している実績もあります。 引き続き、関係者が連携し、チームとして機能できるよう働きかけていきます。
一通り読み、色々な取組みをしていることはわかりました。 ただ、どれも出向かないといけないですね。 私の子は、まだ抱っこひもで出掛けている時、図書館に行く雰囲気が嫌なのか、いつも泣き出してしまい、全く本を借りられませんでした。静かな所は不安になるのかな。 なので、移動図書館、やってみませんか？ 時間を決めて、公園や、少し広い道路なら気軽に行けます。 もっと絵本を身近にしたいです。 予算がないのなら、クラウドファンディング等、いくらでも方法はあります。	【その他】 過去、東京都により「むらさき号」という移動図書館車が配置されていた時期もありましたが、現在は廃止されております。 青梅市で新たに移動図書館を実施する計画はありません。 中央図書館では、毎週月曜日に小さなお子さんをお預かりする託児サービス「ち～のんクラブ」を実施しております。 ぜひ御利用ください。 また、除籍資料を子育て支援センター、保育所、幼稚園等で再利用してもらうことにより、絵本が身近にある環境を充実させております。